

❖ 市誌編さんだより Vol.17 ❖

専門家の調査だけでなく、市民の調査協力員や大学生・中高生と聞き書き調査・執筆を行っています。奇数月に編さん状況を紹介しています。

たかはま 歴史・まちづくりシンポジウム 2

『近代における高浜の“やきもの”―瓦・土管・日用土器―』を開催しました！

2月8日、市誌編さん事業の中間報告や今後の方針をおひろめする場として、「たかはま 歴史まちづくりシンポジウム②」を開催しました。「土管をまとう街」と題し、高浜の“やきもの”をテーマにした基調講演（小栗康寛氏…とこなめ陶の森 資料館 学芸員）と、土管・日用土器生産についての研究発表（豆田誠路氏…高浜市誌 近世・近代・現代部会 調査執筆員）が行われた後、参加者からも意見をいただくパネルディスカッションを実施し、客席からもやきものについての経験や思い出が語られました。

いよいよ市制施行50周年である今年度、新編 市誌「高浜市のあゆみ」が刊行となります。このシンポジウムやこれまでの調査結果をいかながら、執筆活動を進めていきます。

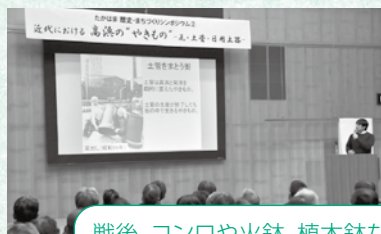


小栗康寛氏

明治19年(1886)に伊藤清吉・神谷源之助によって土管坂付近に登り窯を築き、高浜の土管製造が始まりました。土管は高浜と常滑を劇的に変えたやきものなのです。

生産が終了しても、土管は街の中で生きています。高浜市は、お墓や土留めなど、街の風景の中で、きれいに土管をまもっていてももしろい。街で使われている土管から、ていねいな土管づくりをしていたことがわかります。

土管は、太いものから細いもの、まっすぐではなく、枝分かれしているものもあり、形はさまざまです。黒いものは近代のものであるなど、色で時代を判別することもできるのです。



戦後、コンロや火鉢、植木鉢なども生産されてきました。現在はガーデニングやバーベキューなどの場面でやきものが活用されています。



豆田誠路氏

文献からは、土管をめぐる、関係機関のやりとりの記録が残されており、さまざまなエピソードや当時のようすを知ることができます。



高浜といえば、瓦のイメージが強いですが、明治から昭和30年代にかけて、土管や日用土器を含め、いろいろなやきものが生産されていました。

- ◇自宅などに高浜に関する資料(とくに明治時代～昭和)がありましたら、ぜひ情報を寄せてください。
- ◇資料整理、調査、聞き取りなど、「市誌編さん事業に興味がある!」「参加したい!」という方は連絡してください
- ◇市誌編さん事業に関する詳しい内容は、市公式ホームページの「文化スポーツグループ」のページで紹介しています!